

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	86.1	85.4	日本の国土の姿と都道府県の基本的な内容を出題した。問6の門前(町)と解答する問いでは、宿場、城下などの誤答が多く散見された。また、問9の城下町として発達してきた都市としてあてはまらないものは、(ウ)の神戸市である。神戸市は幕末の開国以降に港町として発展・成長した都市で、城下を基点としたものではない。この2題は受験生と合格者の正答率に大きな差があり、合否に影響があったようである。基本事項となる知識はしっかりと定着させ、学習した県名、都市名、地形名などは必ず地図帳で位置を確認すること。また、機械的な用語の暗記にならないように、関連する事柄を結び付けて体系的に学習していくことを心がけよう。	
	問2	96.0	95.1		
	問3	97.8	98.8		
	問4	78.5	81.7		
	問5	79.4	84.1		
	問6	45.7	64.6		
	問7	95.5	98.8		
	問8	72.2	75.6		
	問9	27.4	35.4		
	問10	77.1	82.9		
【2】	問1	(1)	47.1	61.0	日本の貨幣史を題材に、明治時代までの歴史について出題した。基本問題が中心で、歴史の基礎知識が定着しているかどうかを問うものであった。問1(1)(2)(4)、問2、問3、問6に関しては、合格者の正答率は受験者全体より5%以上高く、合否に影響があった。問2と問6は、大輪田泊と富岡製糸場の場所が理解できていれば難しい問題ではない。地名や施設名を覚えるだけでなく、それが何県にあるのかということを確認していたかどうか为正誤の分かれ目である。問3に関しても、歴史用語の暗記だけではなく、歴史を物語としてとらえることを普段から意識して学ぶことが重要であった。
		(2)	78.9	86.6	
		(3)	93.7	96.3	
		(4)	77.6	84.1	
		(5)	52.9	51.2	
	問2	88.3	95.1		
	問3	71.3	80.5		
	問4	77.6	80.5		
	問5	87.9	89.0		
	問6	67.7	76.8		
【3】	問1	53.4	65.9	地理・歴史・公民の総合問題であり、思考力、判断力、想像力を問う出題であった。昨年までとは形式が違うタイプの出題であった為に受験生にとってはやや難易度が高かったと思われる。社会の用語を直接問うのではなく、説明文や統計、地図から様々な情報を読み取る力を問う大問であった。問3は、中国の伝統的料理の分布を問う問題であった。具体的な中国の料理などを知らなくても、〔説明文〕の気候や農業の特徴から解答を導き出すことが可能であった。問5は、南アメリカの国々の様子を問う問題であった。問3と同様に、細かい知識を問うのではなく、会話文や各国の説明からヒントを見出して解答する問題であった。問7は、フード・マイレージの値が大きい理由を説明する問題であった。「輸入食料の総重量×輸送距離」でフード・マイレージが算出されるということは、様々な国から、多くの農畜産物を日本が輸入していること、その背景の一つとして、日本の食料自給率が低いこと、などを想起する必要があった。	
	問2	65.9	75.6		
	問3	63.2	65.9		
	問4	66.8	70.7		
	問5	65.5	78.0		
	問6	記述	43.0		47.6
	問7 (1)	記述	23.5		28.5
	問7 (2)	記述	25.4		31.3
	問8	67.7	75.6		

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	69.6	83.2	先生と生徒の会話文から都道府県を導き出す問題であった。問2は、前提としてこの県が群馬県であると理解する必要がある、さらに、この県の周辺の地図を頭の中にイメージできるかが重要であった。日頃から地図帳を活用して地理の学習をしている受験生は、対応できたであろう。問5は、会話文から富山県を導き出し、さらに、その県の具体的な地形の特徴を理解しているかどうかを問われた。問6は、選択肢の中に日本海側の県が複数含まれていること、一方で、太平洋側で畜産がさかんな県も含まれていることなどを読み取り、解答する問題であった。統計の数値を覚えていないかどうかではなく、数値を分析し解答する問題であった。問8は、かきの養殖がさかんな宮城県、その宮城県に位置する松島湾というように、知識を関連付けて学習しているかどうかを問う問題であった。	
	問2	45.4	49.1		
	問3	59.6	65.3		
	問4	57.5	67.7		
	問5	34.8	44.3		
	問6	12.7	18.0		
	問7	89.4	97.0		
	問8	32.7	40.7		
	問9	78.8	88.6		
	問10	86.1	91.0		
【2】	問1	(1)	86.1	86.2	古墳時代から江戸時代までの外交についての問題であった。全体として基本的な事項の設問なので、正答率は高い。問1は漢字指定で歴史上の人物を解答する問題であり、難易度を考えても全て正答することが必要である。問3は『蒙古襲来絵巻』から元軍と戦う騎馬武者の竹崎季長を解答させる問題だが、他の設問と比べると正答率は低かった。小学校の教科書に掲載されている入試の定番問題なので、しっかりと記憶しておきたい。その際に元軍の集団戦法に対して、日本軍が一騎打ち戦法にした理由なども考えよう。他の設問は選択肢があるので、消去法などで正答を導き出せるであろう。外交史などの通史は必須なので、自身でまとめていくことが大切である。
		(2)	87.3	94.0	
		(3)	89.4	92.8	
		(4)	83.8	88.6	
	問2	94.4	97.6		
	問3	45.4	50.9		
	問4	73.2	87.4		
	問5	88.8	97.0		
問6	95.0	98.8			
問7	73.7	80.2			
【3】	問1	(a)	69.6	78.4	地理、歴史、公民の総合問題であり、思考力、判断力、想像力を問う出題であった。昨年までとは形式が違うタイプの出題であった為に受験生にとってはやや難易度が高かったと思われる。問1は、歴史の知識を問う出題であったが、正答率は高くよく出来ていた。逆に問4のアメリカ南部にアフリカ系アメリカ人の人口が集中している理由、問7のアメリカトランプ大統領の外交政策の基本方針についての記述問題は、地理、歴史、公民分野の総合的な知識に加え、与えられた資料を分析する力がなければ解答できない出題であった為に、正答率は低かった。
		(b)	87.3	95.2	
	問2	47.2	59.3		
	問3	58.3	67.1		
	問4	記述	28.4	36.5	
	問5	58.4	64.1		
	問6	記述	56.5	65.9	
問7	記述	38.3	51.2		

社会 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	(1)	20.0	21.4	東日本と西日本の地域差をテーマに出題した。問1(1)の正答率が目立って低かったが、フォッサマグナの西端が糸魚川ー静岡構造線にあるというのは知っているもよい知識である。糸魚「川」という名称から、自治体名ではなく河川の名前であると勘違いしてしまっていた受験生がいたかもしれないが、もう片方の「静岡」が自治体名であることから、糸魚川も自治体名であるとわかっていてよいはずだ。また問2はもっとも正答率が低い問題であった。伊吹山地・鈴鹿山脈は必須の知識ではないので、消去法での解答を想定していたが、(イ)の「飛騨山脈と木曾山脈」という誤答が多かった。飛騨山脈と木曾山脈はいずれも長野県と岐阜県の県境あたりに位置する。地図がなくとも、頭の中の地図に大体の位置を思い浮かべられるとよかっただろう。問10の気候の問題は、4つの雨温図を判断しなくてはならないので一見すると難しい問題だが、実際には典型的な太平洋側の気候を示す盛岡市と、内陸型の気候を示す長野市が判断できれば解答可能であり、落ち着いて対処すれば簡単な問題であった。
		(2)	78.5	84.3	
	問2	11.5	15.7		
	問3	49.5	61.4		
	問4	41.0	51.4		
	問5	40.0	52.9		
	問6	36.0	35.7		
	問7	57.0	58.6		
	問8	66.0	75.7		
	問9	87.5	91.4		
問10	55.0	61.4			
【2】	問1	(1)	88.0	88.6	高層建築物をテーマに出題した。全体的に正答率が高かったため、基本的な語句は書けている受験生が多かった。問1(5)では江戸城という誤答が目立った。世界文化遺産に登録された、天守閣が存在する城ということから姫路城は正答してほしかった。また、問5の桓武天皇を問う問題も、聖武天皇と誤答している解答が多かった。聖武天皇は奈良時代、桓武天皇は平安時代と明確に時代をわけて考えて欲しい。問2が歴史の問題で一番正答率が低かった問題であるが、(イ)の定住生活の開始と(ウ)の土偶の制作は縄文時代のことであり、縄文時代と弥生時代の区別をしっかりとっておくことが重要である。また(エ)の青銅器は実用品ではなく、祭器として使用されたことに気づいてほしい。定番の問題ではあるが、しっかりと読んで判断してほしい。問6は刀狩の目的をしっかりと理解してほしい。兵農分離政策の一環として行われ、農民から武器を取り上げる目的であり、武士からではないことを理解してほしい。語句は書けているが、できごとの結果や影響などに意識が向いていないように感じたので、歴史を学習する際には用語のみではなく、流れを意識して学習をすすめてほしい。
		(2)	69.5	78.6	
		(3)	92.0	95.7	
		(4)	81.5	88.6	
		(5)	64.5	71.4	
	問2	47.5	40.0		
	問3	75.0	90.0		
問4	59.5	62.9			
問5	65.5	78.6			
問6	55.5	71.4			
【3】	問1	78.0	85.7	地理、歴史、公民の総合問題であり、思考力、判断力、想像力を問う出題であった。昨年までとは形式が違うタイプの出題であったため受験生にとってはやや難易度が高かったと思われる。地方の中核都市をイメージしたX市の問題点を通して、日本の諸問題を考察する問題である。合格者と受験者正答率で最も差がついたのは、問9の本文から市の問題点を指摘し、manifestoを掲げる問題であった。日頃から新聞やニュースに関心を持ち、ニュースを通して問題点に気づき、それをいかに解決するか、という問題発見解決型の学習を意識して欲しい。さらに学習を深めるためには、掲げたmanifestoの問題点を考察することなどが有効である。問4のAIについても、報道などでも承知するところであると思う。関連する書籍が発行されたり、特集した番組が報道されるなど、まさに現代社会のトピックともいえることだと思う。選択肢以外にも、遠隔医療や自動運転の車、また、ドローンを使用する宅配などの実用化に向けての研究が進んでいる。AIの研究開発の促進が我々の生活をどのように変え、価値観にどのような変化をもたらすかなどを考察して欲しい。問7は市長の役割に関する正誤選択問題であった。今後の学習として、思考型の学習が重要にはなるが、その前提になるのは基本的な知識であることも忘れずに学習に取り組んで欲しい。	
	問2	29.5	40.0		
	問3	64.0	67.1		
	問4	50.5	70.0		
	問5	32.5	35.7		
	問6	場所	89.5		90.0
		理由	63.5		66.4
	問7	19.5	25.7		
	問8	39.5	52.9		
	問9①	問題点	65.5		78.6
		manifesto	56.8		67.9
問9②	問題点	53.5	74.3		
	manifesto	47.3	65.0		